戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第３期の概要

令和６年９月２５日

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局
参事官（インフラ・防災担当）
髙嶺　研一

戦略的イノベーション創造プログラム

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の概要

＜SIPの仕組み＞

○総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）が、Society5.0の実現に向けてバックキャストにより、社会的課題の解決や日本経済・産業競争力にとって重要な課題を設定するとともに、そのプログラムディレクター（PD）・予算配分をトップダウンで決定。

○基礎研究から社会実装までを見据えて一気通貫で研究開発を推進。→**イノベーション創出**

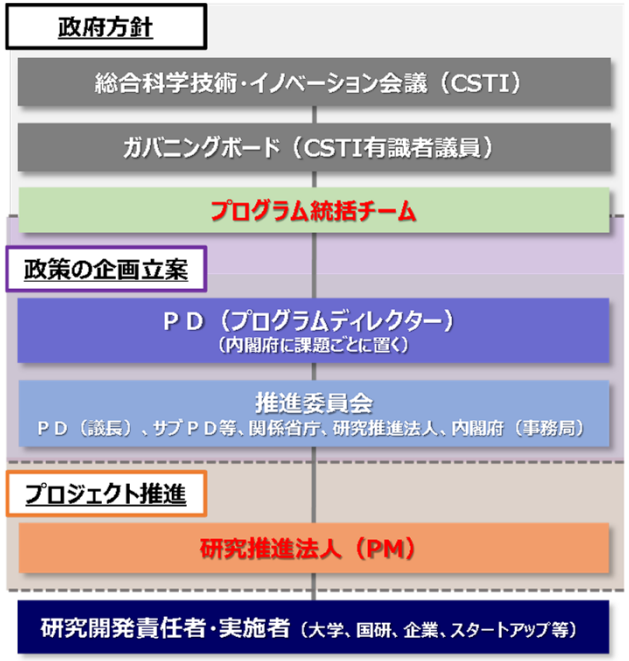
○府省連携が不可欠な分野横断的な取組を産学官連携により推進。マッチングファンド等による民間企業の積極的な貢献。

○技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材の視点から社会実装を推進。

○社会実装に向けたステージゲートやエグジット戦略（SIP後の推進体制）を強化。

○スタートアップの参画を積極的に促進。

＜SIPの推進体制＞



＜各事業期間の課題数・予算額＞

第1期（平成26年度から平成30年度まで5年間）

○課題数：11

○予算額：1～4年目：325億円、5年目：280億円

第2期（平成30年度から令和４年度まで５年間）

○課題数：12

○予算額：1年目：325億円、2～5年目：280億円

第3期（令和５年度から令和９年度まで５年間）

○課題数：14

○予算額：令和5年度予算　280億円

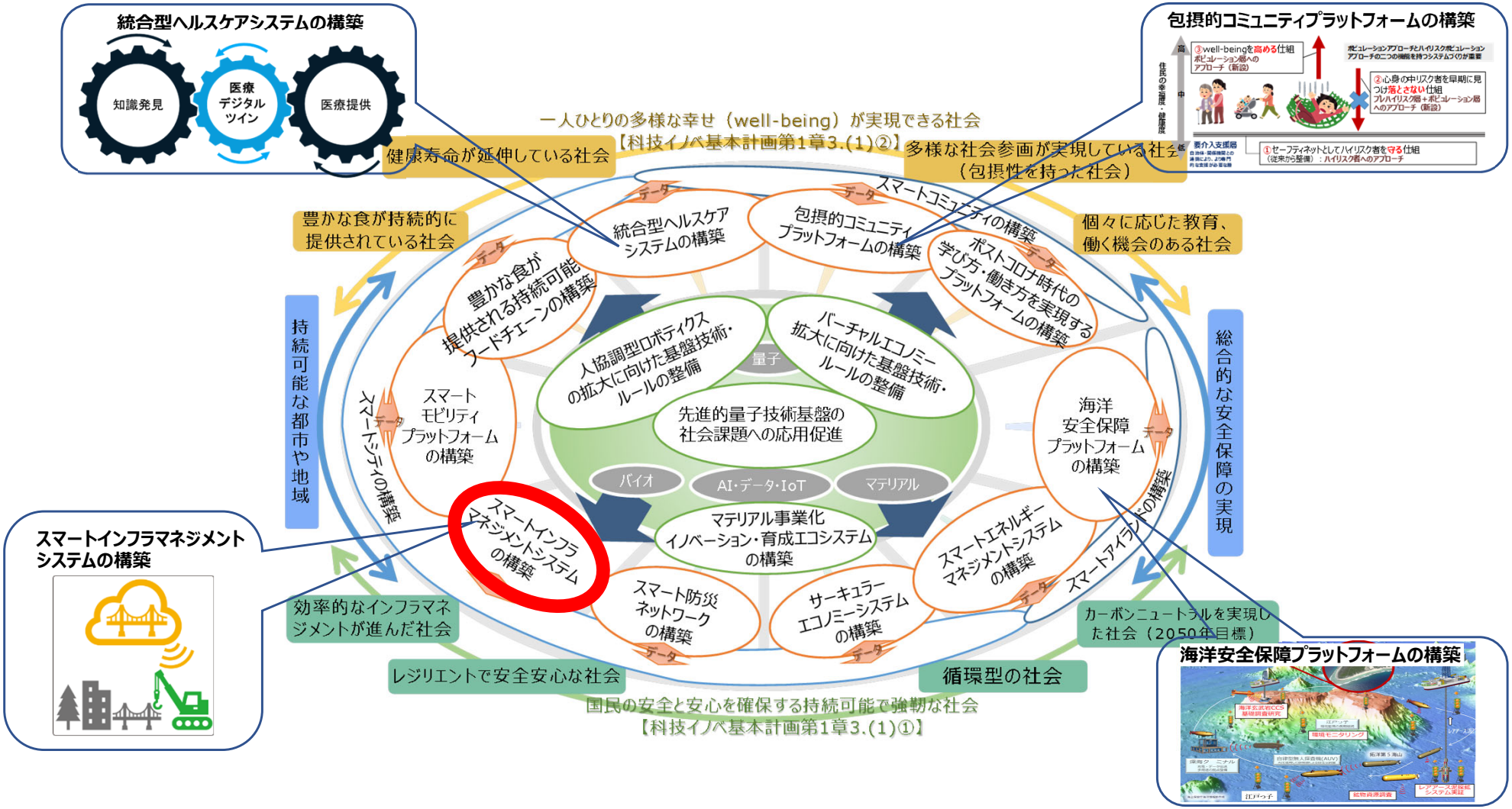
令和6年度予算　280億円

SIP第３期の１４課題

○令和5年度のSIP第3期の開始に向けて、**Society5.0からバックキャストで課題候補を選定**し、令和４年度にフィージビリティスタディ（FS）を実施。

○FSの結果を踏まえ、事前評価を実施し、**令和５年１月に１４の課題を決定**するとともに、それらの「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画（戦略及び計画）」案を作成。

○戦略及び計画案のパブコメ、PDの公募を経て、**令和５年３月に戦略及び計画とPDを決定**。



社会実装に向けた5つの視点：基本的考え方

○ＳＩＰ第３期では、**社会実装に向けた戦略として、技術だけでなく、制度、事業、社会的受容性、人材の５つの視点から必要な取組を抽出するとともに、各視点の成熟度レベルを用いてロードマップを作成**し、府省連携、産学官連携により、課題を推進。

従来のプロジェクト

社会実装 例：無人自動運転サービスの実現

技術
例：自動運転技術開発

社会実装に向けて技術開発以外の取組が進められていない

技術はできても、社会実装につながらないことも

SIP第３期

社会実装 例：無人自動運転サービスの実現

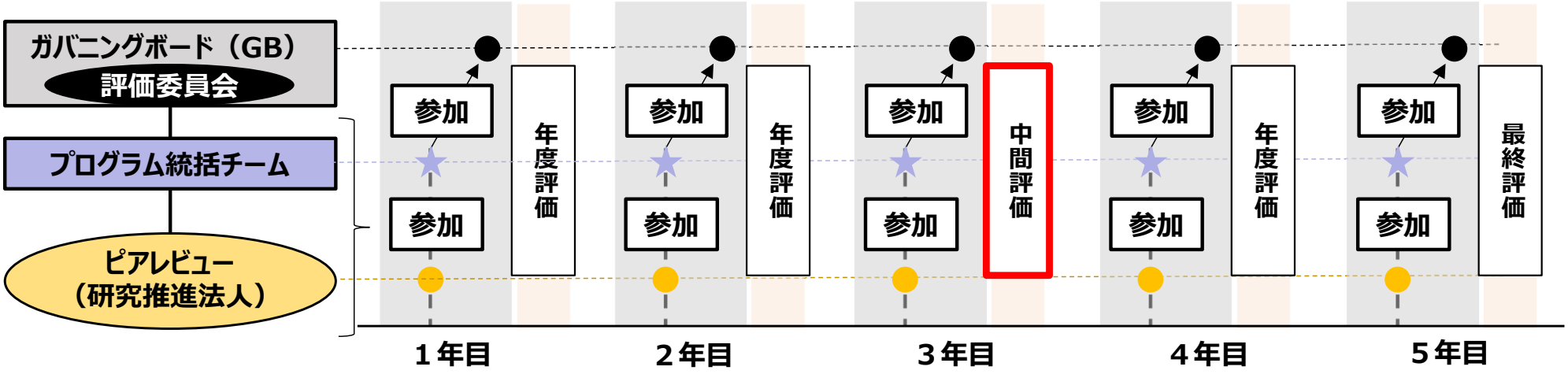
技術	制度	事業	社会的受容性	人材
例：自動運転技術開発	例：関連法令整備	例：事業モデル構築	例：地域関係者の協力	例：遠隔監視者育成

- プログラムディレクター（PD）のもとで、府省連携・産学官連携により、５つの視点（技術、制度、事業、社会的受容性、人材）から必要な取組を推進
- ５つの視点の取組を測る指標として、TRL（技術成熟度レベル）に加え、新たにBRL（事業～）、GRL（制度～ ）、SRL（社会的受容性～ ）、HRL（人材～ ）を導入。

中間評価（ステージゲート）について

○3年目に、技術評価に加え、研究成果を利用する者（ユーザー）の視点での評価を実施。
　→社会実装されるサービス/製品、社会実装の担い手・体制等の妥当性を評価
○技術評価及びユーザー評価を総合的に評価し、研究開発テーマの継続の可否を判断（ステージゲート）
　←ユーザーが特定されず社会実装が見込めないものは継続を認められない

ポイント1
技術評価に加えて、３年目にユーザー視点からの評価を実施



ポイント2
中間評価でステージゲートを実施。ユーザーを特定できず、社会実装を見込めない場合、原則廃止。

ご清聴ありがとうございました。

SiP
戦略的イノベーション創造プログラム